

重要無形文化財保持者とは？

重要無形文化財保持者（通称「人間国宝」と呼ばれている）とは、国の重要無形文化財に指定されている伝統工芸や芸能の名人を指す。人間国宝は、その知識や技術を保存し、普及させるために、政府から年俸やその他の支援を受けている。

本指定は、1950年の文化財保護法の改正により、1954年に制定された。それは、現在の文部科学省に、歴史的建造物などの有形文化財だけでなく、伝統工芸や芸能品などの無形文化財も保存するよう求めた。

重要無形文化財保持者に指名されたのはわずか数百人しかおらず、その認定は亡くなるまで保持される。現在の保持者の数は116名とされているが、実際の数はこれよりも少ない。

重要無形文化財の「工芸」には、陶芸、染織、漆器、金工、木竹工、人形、和紙、撥鏝（ばちる、染めに象牙を彫る）、截金（細い金箔を張って模様を描く）9分野があり、その中で、陶芸は彩釉、漆器は蒔絵というように、幅広い分野で特定の技法が認められている。

石川県は、木工、漆工、金工、染織、陶器など、多くの分野で歴史を誇っている。2022年現在、重要無形文化財保持者は9人、1団体あり、県民一人当たりの国宝数は全国一である。